



中国医科大学

China Medical University



●学部学生 14,145人 ●大学院生 5,910人 ●教職員 2,249人 ●留学生 730人

ホームページ <http://www.cmu.edu.cn/>

交流協定締結年月日：1997年8月28日 主管学部：医学部



<http://www.cmu.edu.cn/>より抜粋

国際交流の特色

中国医科大学は中国東北地方の中心都市である瀋陽に位置し、非常に古い歴史をもつ大学であり、また日本とも深い関係をもっている。現代医学教育・研究に中心的な役割を果たしている大学で、毎年数多くの人材を養成し、中国の衛生管理ならびに医学・医療のリーダーを輩出している。中国医科大学は約15,000名の学生を有し、また大学院には博士課程約60、修士課程約70余の専門コースが設けられている。国際交流では、アメリカ、カナダ、フランスをはじめ世界の多くの国々と交流協定を締結しており、香港、マカオ、台湾等の外国から439名の留学生を受け入れている。本邦では慶応義塾大学、大阪大学、九州大学等の医学部と姉妹校になっている。

交流実績（平成29年度～31年度）

年度	H29	H30	H31
受入・派遣			
学生の受入	0	1	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	3



教員からの声

中国医科大学は基礎医学院、公衆衛生学院をはじめ計28の研究学院からなる総合的医学教育機関です。学術交流協定は1997年に締結されています。協定締結後も毎年多くの学生が、基礎・臨床医学講座に留学してきましたが、最近国費留学生の採択数が激減したため留学生が減少しました。

中国医科大学は、設立時より日本との関係が深いため、日本語を話せる職員が数多くみられるのが特徴です。かつては一部の学生に対しては医学部の授業が日本語で行われていたため、研究者のみならず学生も日本語を流暢に話せる人も少なくありません。平成23年3月には学生派遣がなされましたが、それ以降、本学からの派遣は行われていません。しかし、中国医科大学は国際交流が盛んであり、日本に対しての興味も深いので、今後双方の研究者・学生交流が推進されることを期待しています。

医学部教授 永竿智久

私は2000年から2006年まで、国費留学生そしてポスドクとして香川大学医学部第一生理に留学しました。nNOSリン酸化及び希少糖などの研究を集中して、私の研究にとって一番大切な6年間でした。その間とても忙しいですが、今振り返ってみると研究の知識や技術などを習得できて価値があった。

帰国後、もとの中国医科大学第一附属病院麻酔科の助教授になって、2011年新しい疼痛科を創って2013年教授になりました。今教室には医者9人、看護婦8人、大学院生9人がいます。研究に関しては、香川大学の研究を続けています。

平成27年に天津で行われた留学生同窓会において、医学部の先生方とお会いして、今後双方の研究者・学生交流を再開させようと話し合いました。

中国医科大学教授 宋 濤